

瑞輪寺 東京都台東区谷中 4 丁目 2-5

瑞輪寺は慈雲院日新上人が開山、徳川家康公が開基した谷中の名刹です。日新上人は、徳川家康公の幼少時代の学問教育の師範であり、甲州の身延山にて人の道を説いたとされています。その際、感謝と御礼として開基の約束をし、家康公が天下統一を果たした後、日本橋馬喰町に瑞輪寺が創建されましたが類焼によって焼失し神田に移転しました。しかし、ここでも類焼の被害を受け慶安 2（1649）年に谷中に再建築され現在に至ります。

鐘楼は、祖父の徳川家康公を慕っていたという家光が寄進しました。

また、日本初の水道「神田上水」を整備した大久保藤五郎忠行は、その功績を家光に認められ「主水（もと）⇒濁らない」の名を与えられたそうです。水道事業の責任者にもなれたはずも忠行ですが、上水を整備した水を使った大好きなお菓子職人の道を選び、以降、大久保家は代々主水の名で幕府御用達の菓子司を務めました(境内説明版)。



山門の重厚感があり立派



家康学問教育のイラスト説明版



本堂



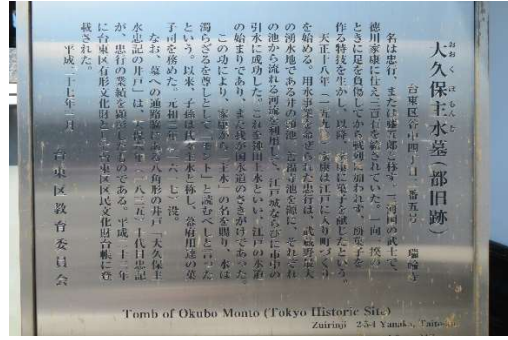
その上には龍の木彫り彫刻



彫刻や瓦も立派



家光寄進の鐘楼



大久保主水(もんと)の説明版



大久保主水の墓石